

# ポプラの森 通信

第2号  
2006.2.15  
Aichi University Green Volunteers Society

●●●●「ポプラの森」第2次隊を派遣しました!●●●●



2005年8月23日～30日(7泊8日)の日程で「ポプラの森」第2次隊(通算12回目)を中国内モンゴル自治区恩格貝クブチ沙漠に派遣しました。

有園正一郎文学部教授(3回目の参加)を隊長とする26名は中部国際空港を13:00に出発し、15:00到北京国際空港へ到着。入国手続、夕食後に寝台列車にて包頭へ向かいました。

包頭よりバスにて恩格貝に入った一行は、日本沙漠緑化実践協会中国事務所長安田さんの出迎えを受け、植林活動をスタート。今回は例年になく暑く、植林活動は過酷なものになり、体調を崩す参加者もいましたが、3日間の作業で504本のポプラの植林と成長したポプラの剪定を行うことができました。また、参加者である堀田能正さん(愛知大学同窓会副会長・豊橋支部長)が植林活動をビデオ撮影し、約40分のDVD・VTRとして編集してくれました。

植林活動後は包頭 北京を經由して天津へ移動。本学協定校である南開大学を訪問し、1泊ののち北京にて自由行動、夜にはさよならパーティーを開き、参加者の労を互いにねぎらい、8月30日に全員元気に帰国しました。

愛知大学「緑の協力隊」

ポプラの森

愛知大学(校友課内)「ポプラの森」事務局

〒461-8641 名古屋市東区筒井 2丁目10-31

TEL 052-937-8156 FAX 052-937-8157

e-mail: kouyu@aichi-u.ac.jp





# ポプラの森ニュース

## 第2次隊交歓会・交流会を開催 安田 廉氏による記念講演もあわせて開催

11月13日(日)本学車道校舎にて、今年度派遣された「ポプラの森」第2次隊の交歓会並びに交流会が開催されました。交歓会には第2次隊参加者の多数が参加し、お互いに写真を交換しあうなど思い出話に花が咲きました。

交流会では、安田 廉日本沙漠緑化実践協会中国事務所長から「クブチ沙漠植林最新事情」と題した記念講演があり、質疑応答も交えながら約2時間に渡って沙漠緑化への熱い思いが伝えられました。

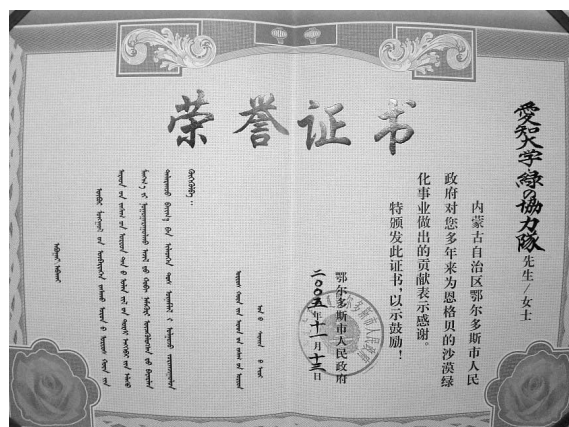
(講演の概要は今号3ページ以下に掲載されていますので、あわせてご覧ください。)

## 藤田佳久 本学文学部教授が日本沙漠緑化実践協会会長に就任

藤田佳久 本学文学部教授が本学植林ボランティア事業の受け入れ先である日本沙漠緑化実践協会の会長に就任されました。今後、本学と協会との関係が一層緊密になり、植林活動が更に進むものとして期待しています。

## オルドス市人民政府より荣誉证书

本学植林ボランティア隊の植林地である恩格貝のある中国内蒙古自治区オルドス市人民政府より、本学の長年にわたる沙漠緑化事業への感謝の印として荣誉证书が贈られました。荣誉证书は上記交流会の席で日本沙漠緑化実践協会の田岡理事から本学武田学長(「ポプラの森」会長)に贈呈されました。



## 「ポプラの森」活動が本学の単位に

2006年度から、本学経済学部3年次以上の学生が「ポプラの森」植林ボランティアに参加した場合には、「中国アジア経済特殊講義(2単位、集中)」として単位認定されることになりました。本会活動が大学の単位として認められることは大変意義深いものであり、学生が活動に参加する動機付けの一つにもなることが期待されています。

## 「ポプラの森」交流会記念講演 要旨

2005年11月13日に開催された安田 廉日本沙漠緑化実践協会中国事務所所長による記念講演「クブチ沙漠植林最新事情」の概要を掲載します。当日は数多くのエピソードが散りばめられ、内容の濃い講演となりましたが、紙幅の都合で要旨のみの掲載となっておりますことをご了承ください。

### 地球全体がおかしくなっている

私は11月の1日に日本に帰ったのですが、毎年だったら10月の15日には(恩格貝では)大体-5度から-7度ぐらいまでになるんですよ、朝は。それが今年は0度から下がります。今年は、本当に異常気温です。

毎年毎年、木を植えていっても、芽を出すことは簡単にできます。ポプラの木は強いんです。ただ、沙漠というのは元々水分がない所ですから、その水分がなくなった後には、立ち枯れしてしまうのです。私も最初のころは分からなくて、何回も失敗を繰り返しました。コリメイスという地域に約3万本植えたんですね、91年から93年の間に。ただ、1998年から大干ばつが始まったのです。98年の降雨量が年間90mmです。99年が60mm、2000年が66mmという格好で続いたのです。それだけしか降らないわけだから、皆さんが正瑛先生(注：故遠山正瑛日本沙漠緑化実践協会名誉会長)のことをとやかく言いましたけれど、そんなのは、先生の責任じゃないのです。それはもう、地球全体がおかしくなっているわけですから。2003年は恩格貝が100年ぶりの大洪水になりました。夜中に雨が降りまして、3時間に90mm降りました。1時間30mmですね。たくさん人が亡くなりましたけれど、この洪水がおきたおかげで、91年から93年の植林地の枯れたと見えたホプラの木が、全部蘇りました。

### 「ヤスダ流」植林法

いま私と一緒にやっている連中が恩格貝という地区で仕事をやってくれるのはなぜか？森を作るのが自分たちの仕事だということ、それを彼らは知っているからやってくれるわけです。なぜ、恩格貝に森があるのか？それは、確かに先生が始められた森なんですけれども、その後をどういうふうにやっていったらいいかということまで、先生が私に残してくれた遺産があるからです。平地に木を植えたら、みんな枯れるというのが分かっていたので、去年から砂丘地に移植したわけです。砂丘地にしたら、99%は、1年間活着します。とりあえず丸2年間は、私は100%の木を残すようにしているわけです。ただし3年目からは、人間の子どもといっしょで、手を放してやらないと、ポプラは成長しま

せん。来年は、できれば苗堀りもやってもらいます。技術のある人と、ない人と区別してみたりして効率のいいほうをね。枯れても仕方ないです。実験的な格好でやっていただこうと思っています。中国では剪定する必要はございません。剪定は、内蒙古では邪道なんです。なぜか？食害が出ます、ヤギの。「おまえ、なにしてるんだ！」といつも怒るんだけど…。仕方がないんですよ。私らは、ここに勝手に来て木を植えているじゃないですか。

どうしても私は中国の関係で、中国の歴史ものを読むようになったのです。司馬遷の「史記」の中で、アジア圏で仕事をする場合には、自分が仕事をやってあげているのではない、あなたは外国に行って、この仕事をさせてもらっているんだ、と考えたほうがいいよ、というようなことが書いてあるのです。これはいいなと思って、内蒙古人民政府の方とそういう話をしたら、「すごいね。あんた、それを大学で話してくれや。」「なんで？」「あんたみたいな考え方でやってくれたら我々中国人も、本当に一生懸命にやりますよ。」と言われたのです。そうなのかなあ、と。



私は色々な人と議論してよく喧嘩します。頭に血がパッと昇るから、すぐ手が出ちゃうんです。私は人前では、もう体力がないからできないけれど、ゲンコツくらいは、好きだから…。そうすると、部下が「先生、なんで？」「なんで分からないか？」「お前が酒飲んでたから。」「なんで酒を飲んだらいいかん。先生も飲むじゃないか。」「私は飲まない。」…。だから私は、皆さんが来た時にはお酒を飲むけれど、普段は1滴も飲みません。そうすると、彼らも追々に分か



ってくれるわけ。私は恩格員で、ほとんどの管理者とはばん投げあっていて、レスリングに近いみたいに。だけど、そいつらと今は一番仲がいい。喧嘩ができるぐらいでないと、仲良くなれないんですよ。日本では喧嘩したらダメとか言うでしょう。これはおかしいと思います。

去年学生を連れて歩いたら、中国語を喋っている。だけど、私の言葉のほうに通じる。とてもきれいな発音をされるけれど、相手に通じていない。(会場笑)やはり会話は現場で覚えるのが一番です。

植林もそうなんです。先生が言われるように…。私は本が好きですが、植林の本なんか1冊もない。沙漠というのは、未だにどれが正しいという植林方法はないわけです。私は、先の洪水から学んだから、皆さんが来る前に砂丘に全部水をまいた。水をまいてから植林をしたら、ほとんど100%活着するようになりました。仕事はできるだけ楽な方向に持っていったほうがいいというのが、私の方法ですし、これでいいと思います。



## 植林に「遊び」を

一番みなさんに考えてほしいのは、真面目に仕事をしないでいいと思うのです。木はきちんと植えてほしいのですが、ポプラの森の中に他の種類の木が混ざっていたほうがいいのです。これは虫の発生を防ぎます。そういうふうに遊びを入れたらいいのです。持田さん、なんだったかね、今回植えたのは？ヒガンバナ？今回、先生の墓まわりに100本植えていただいて、2つだけ花が咲きました。沙漠緑化というのは、何回も言いますが、定義がないのです。何でもいから、自分のアイデアを持ってきて、そこで試してほしいのです、何がいいかは、皆さんが考えて…。たった3日間しか、皆さんの場合は沙漠に来ませんから。3日間、木を植えるだけでは楽しくないと思いますから、何かの遊びをやっていただけたらと思います。私は今回、コスモスの種を持ってきていますから、欲しい方には差し上げます。持って帰って、ぜひ恩格員のコスモスを日本で咲かせてください。それが私の遊びです。

## 質 疑 応 答

【質問】アンズとかブドウとか、そういうものを今後どのように活用していけますか？

【安田】これは難しいですね。私の所のブドウ園はとても美味しいのです。ですから、残しておいたのが、全部盗られました。(会場笑)アンズなども今年は山ほど…。だけど、盗られるほうが多い。うちはNGOだから、売ったりどうのこうのできないんですよ。それに、単価が安すぎる。お金にならない、あれぐらいの量では。人件費のほうがよく高い。だから趣味の段階でしかできないです。

【質問】私も同じようなことで、この前新聞を見ていたら、サジが載っていたものですか。

【安田】サジについては、実は、皆さんに売だけの収穫が恩格員にあります。協会としては管理のお金が出ていないから、それが一番の悩みなのです。これから出してほしいのは、井戸を掘る費用とか。例えば間伐した木を、私の山陰は炭にしたりするから。日本で炭がものすごくブームだから、炭は、これからお金になります。日本の炭化する機械があるから、そういう予算が出る団体があればいいのになあ、と思います。

【質問】サハラ沙漠とか、アフリカの沙漠は緑化することはできるのですか。

【安田】いい質問ですね。アフリカの沙漠は、正瑛先生の言われるとおり、22世紀から始めたらいいと思います。なぜか？あそこは、ほとんどヨーロッパの植民地です。アジアと国の形態が違うのです。それと、私の一番嫌いなサソリがいます。(会場笑)行くたびに予防注射をやって、そうすると、予防注射だけで病気になりますから。(会場笑)私は、そういう怖い所に絶対行きません。サハラ沙漠も、やっている人がいっぱいいますよ。だけど、やり方が難しいから効果が上がらないじゃないですか。だから学者の先生にやっていただいていたらいんですよ。それで、そのデータをもってきて、その中から選んで、自分でそれを当てはめていけばできるじゃないですか。先生は22世紀…。それが、たぶん本当の答えだろうと思うけれども。

やらないより、やったほうがいいわけだから、あなたがやりたければ、痩せるよ。(会場笑)

【質問】皆さんに安田さんから愛知大学が植林を続けるにあたってひとこと。

【安田】たいへん僥越ですけど、私もそうなんですけれど、たぶん皆さん個々の心の中で葛藤が出るのは、これは人間なんで当たり前だと思います。3年前ですが、大学自体今年限りで終わるという時もあったとお聞きました。私自身も、ある時、突然、自分の周りに不幸が全部かたまってきた時があったのですね。

これをなぜ話しているかというと、正瑛先生が、私の周りに不幸がおきたことによって、寝込んでしまったということが、たぶんあったんじゃないかなと思っているのですね。「先生、どうした？」といっても、何もしゃべらない。ああ、そうか、先生は私の家庭の不幸によって、寝込んでしまったのか、と思ってしまった。それじゃ仕方がないな、と。私のためにこんなに辛い思いをさせたから、仕方がない。じゃあ、私が後を継ぐよと先生に言ったら、「うん、そうか。じゃあ、私はあと農園をやるよ。」と。それで、少し元気になりましたのですが、屋根まで乗ってた人が、なぜ寝込んでというか…。それで分かってしまったのだけれど。

私は、この愛知大学というのは、95年に私が恩格員に行く時だったか帰る時だったか、一緒になったのです。愛知大学といっても、学生は1人もいないんです。愛知大学は老人の会かと思った。(会場笑)こんな人たちも来ているんだということ…。

その当時は正瑛先生と私の仲というのは、ただ先生は「あんたは、ただそばにおってくればいい」と。私は先生と一緒に畑だけやっていました。私は植林なんか、したことがない。恩格員に行っても、先生の畑の周りの草取りと、水やり。毎年そればかりです。朝から晩まで草とって。畑に水をやってくれて言われて。人夫と同じように、馬車馬のごとく働かされた人間が、結局、森が育たないというので、99年に、先生から頼まれて協会の職員になり、さらに2003年に、先生からあとのことを…。結局、自分の今の一所懸命、つまりひとつの所でやるというね。ああいう、昔の戦国武将の生き方というのは、とっても好きなんです。荒木村重。本当はメチャクチャ強かったんですよ。彼は悪役の1人になっているけれど、一番強かったのは、荒木村重だと思う。なぜかという、織田信長にはむかっていったのは、彼1人じゃないですか。彼が「一所懸命」という言葉を作ったわけです。ひとつの所で頑張るということ。だから私は今、恩格員で頑張っているわけですよ。皆さんの力を借りているわけですよ。ひとつの所でしか、私は頑張れない人間だし。あっちこっちやるというのは、本当は沙漠のために、地球のためにはいいかもしれないけれど、私みたいな微力の人間には、あっちこっちでやるというのはできないです。やはりひとつの所でやるというのが、私

のやり方。たくさん見るのは、若い時に見たほうがいけれども、仕事を選ぶのは、1箇所です。やはり頑張る。これが日本人的な考えしかできないのかもしれないけれど、いいんじゃないかなと思っています。

皆さんもできれば、恩格員である程度完成させてほしいのです。まずポプラで森を作って、腐葉土になるのに30年かける。30年後に、そこに何かを植えてほしいのが、あなたたち若い年代のテーマです。遊びがほしいというのは、そこなんです。次の植種というのは、何がいいのか分からない。自生して、自分で広がって行くのが森だから。



恩格員で嬉しいのは、鳥がいっぱい増えたと、今キツネがいるんですよ、2匹。伊藤さんと早川さんが2001年に恩格員に来た時に、3人で話していたら、キジがパタパタと出て…。みんな感動して大泣。森にはなっていませんけれど、林がたくさんある、こんなに鳥が増えたのだという気持ちで喜ぶ。みなさんにたくさん感動してほしいし、分かってほしい。できれば、私が来てほしいのは、秋とか春先なんです。忙しい時に来て、ちょっと長期滞在して体験して下さい。そうすると、本当にモノのありがたさが分かります。

皆さんが来ている時は観光で来ておられるから、全部用意してあって。やはり不自由さがないと、楽しくないのが中国なんです。皆さんが帰った後は、停電ばかりですよ。そうすると、こんな機械は使えなくなる。沙漠というのは、皆さんが来ている時はいいけれど、普段は停電だらけ。この前、停電があった時、電話も壊れた。やはりそれだけ恐いのです。だから、そういうことを本当に分かっていたいて、なおかつ応援していただきたいと思います。

自分のことになりますが、できましたら古本を持ってきてください。よろしくお願いいたします。(会場笑)

(了)

## 2005年度 運営組織について

2005年度の運営組織は以下の通りです。

役職名	氏名	任期
会 長	学長 武田 信照	
副会長	同窓会長 安井 善宏	
副会長	後援会長 平井 治彦	
副会長(運営委員長)	経済学部長 佐藤 元彦	2005.4.1～2007.3.31
運営委員	同窓会 豊橋支部長 堀田 能正	2005.4.1～2007.3.31
運営委員	同友会 常務理事 浅井 英行	2005.4.1～2007.3.31
運営委員	後援会 東三河支部長 藤城 光康	2005.4.1～2005.6.4

役職名	氏名	任期
運営委員	後援会 東三河支部長 原野 武久	2005.6.5～2007.3.31
運営委員	法人会員 荘司 吉信	2005.4.1～2007.3.31
運営委員	個人会員 林 徳太郎	2005.4.1～2007.3.31
運営委員	校友課長 樋口 裕嗣	
監事	同窓会 石川 光男	2005.4.1～2007.3.31
監事	同窓会 森下 清司	2005.4.1～2007.3.31
幹事	校友課 野末 学	

## 2004年度決算・2005年度予算について

2005年4月5日本学豊橋校舎にて運営委員会を開催し、2004年度決算並びに2005年度予算について審議し、以下の通り承認されました。

### 平成15年度・平成16年度収支報告書

収入の部

(単位: 円)

科目	予算	備考
1. 事業費	2,800,000	
(1) 大学からの事業費	1,400,000	平成15年度・16年度分( @700,000 )
(2) 共催団体からの事業費	1,400,000	平成15年度・16年度分
愛知大学同窓会	400,000	( @200,000 )
(財) 愛知大学同友会	400,000	( @200,000 )
愛知大学後援会	600,000	( @300,000 )
2. 会費	401,000	
(1) 法人・団体等	21,000	平成15年度 3団体 平成16年度 0団体
(2) 個人会員会費	380,000	平成15年度 148人 平成16年度 39人
3. 寄付金	218,229	平成15年度 218,229円 平成16年度 0円
合計	3,419,229	

支出の部

(単位: 円)

科目	予算	備考
1. 事務費	86,880	
(1) 事務費	86,880	
(2) 印刷費	356,370	案内送料、現像代、カメラ代
2. 会議費	83,126	会員募集/入会 会費振込用紙、封筒、会員証
3. 事業費		結団式、交歓会、座談会
日本沙漠緑化実践協会賛助会費		
1) 継続会費	100,000	
2) 緑の協力隊参加者協力金	160,000	平成15年度・16年度分( @50,000 )
文集「ポプラの森」発行費	187,425	平成16年度分( 植林ボランティア学生・副隊長参加者補助 )
現地引率等費用	202,000	
ボランティア隊員の旅行傷害保険料	57,920	
「ポプラの森」石碑	88,200	
「ポプラの森」会員システム変更	63,000	
その他諸経費		
会員バッジ	661,500	1,000個
小計	2,046,421	
4. 次年度繰越金	1,372,808	
合計	3,419,229	

### 平成17年度収支予算

2005年4月1日～2006年3月31日まで

収入の部

(単位: 円)

科目	予算	備考
1. 事業費	1,400,000	
(1) 大学からの事業費	700,000	
(2) 共催団体からの事業費	700,000	
愛知大学同窓会	200,000	
(財) 愛知大学同友会	200,000	
愛知大学後援会	300,000	
2. 会費	265,000	
(1) 法人・団体等	85,000	継続(3団体)新規(10団体)
(2) 個人会員会費	180,000	継続(100人)新規(40人)
3. 寄付金	30,000	
4. 前年度繰越金	1,372,808	
合計	3,067,808	

支出の部

(単位: 円)

科目	予算	備考
1. 事務費	100,000	案内送料、現像代、カメラ代
(1) 事務費	100,000	会員募集/入会 会費振込用紙、封筒、会員証
(2) 印刷費	200,000	
2. 会議費	100,000	結団式、交歓会、座談会
3. 事業費		
日本沙漠緑化実践協会賛助会費		
1) 継続会費	50,000	
2) 緑の協力隊参加者協力金	200,000	(学生20名)
文集「ポプラの森」発行費	200,000	
感想文集「ポプラの森」発行費	320,000	新規事業(年2回刊行予定)
ポプラの森通信発行費	250,000	
現地引率等費用	320,000	新規事業( @1,000円×50名 )
現地さよならパーティー補助費	50,000	( @1,900円×50名 )
ボランティア隊員の旅行傷害保険料	95,000	
会員交流会	500,000	新規事業(講演会、交流パーティー等)
4. 雑費	50,000	
雑費	50,000	
小計	2,115,000	
5. 予備費	952,808	
予備費	952,808	
合計	3,067,808	

## 2006年度 「ポプラの森」第3次隊について

第3次隊の派遣については、第2次隊参加者のアンケートや日本沙漠緑化実践協会などの意向を踏まえながら、2006年7月末～8月上旬の実施をメドに日程を調整しています。詳細が決定したいお知らせいたしますので、もしばらくお待ちください。

## 「ポプラの森」会員数

個人会員212名 法人会員9団体

## 活動記録

### < 愛知大学「緑の協力隊」活動記録 >

派遣隊	派遣期間	参加人数	植林数	備考
予備調査	1995年5月 7日(日)～5月14日(日)			
第1次隊	1995年7月28日(金)～8月 4日(金)	22名	1,600本	ポプラ
第2次隊	1995年9月 8日(金)～9月15日(金)	22名	1,000本	ポプラ
第3次隊	1996年7月25日(木)～8月 1日(木)	17名	882本	ポプラ
第4次隊	1996年9月 5日(金)～9月12日(金)	15名	679本	ポプラ
第5次隊	1997年7月25日(金)～8月 1日(金)	29名	750本	ポプラ
第6次隊	1998年8月23日(日)～8月30日(日)	31名	850本	ポプラ
第7次隊	1999年8月26日(木)～9月 2日(木)	21名	134本	ポプラ + 松 + 草方格270m <sup>2</sup>
第8次隊	2000年8月24日(木)～8月31日(木)	28名	999本	ポプラ
第9次隊	2001年8月24日(金)～8月31日(金)	46名	488本	ポプラ
第10次隊	2002年8月11日(日)～8月19日(日)	48名	520本	ポプラ
合計		279名	7,902本	

### < 愛知大学 緑の協力隊「ポプラの森」活動記録 >

派遣隊	派遣期間	参加人数	植林数	備考
第1次隊	2004年8月11日(水)～8月18日(水)	32名	646本	
第2次隊	2005年8月23日(火)～8月30日(火)	26名	504本	